

林野庁 九州森林管理局

屋久島森林生態系保全センター

令和 3 年度 **年報**



黒味岳山頂

目次

I 概要.....	1
II 森林生態系保全・保護.....	2
1. 森林生態系モニタリング.....	2
(1) 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査.....	2
(2) 高層湿原の植生状況モニタリング調査.....	3
2. 森林生態系保全.....	5
(1) 植生保護.....	5
(2) 森林パトロール.....	6
(3) ヤクシカ対策.....	7
(4) 屋久島低地照葉樹林の森林基礎調査.....	9
3. 気象モニタリング.....	10
III 普及教育・森林空間利用.....	12
1. 森林環境教育の実施.....	12
2. 屋久島自然休養林.....	14
(1) 森林環境整備推進協力金の実施.....	14
(2) 利用者数.....	14
IV その他.....	15
1. 入林・保護林内調査等の手続き状況.....	15
(1) 入林届件数.....	15
(2) 調査研究の入林目的（保護林以外も含む）.....	15
2. 保護林調査報告書.....	18
3. 広報活動.....	19
(1) 保全センター広報誌「洋上アルプス」の発行.....	19
(2) 「屋久島森林生態系保全センター」ホームページの更新.....	21

各種調査・業務の詳細はホームページに順次掲載予定ですのでぜひご覧ください

九州森林管理局 HP > 森林管理局の案内 > 森林管理署等の概要 > 屋久島森林生態系保全センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



I 概要

屋久島は、九州最南端の佐多岬から南方約 60km の海上に位置し、東西 28km、南北 24km、周囲 105km のほぼ円形の島で、中央山岳部に九州最高峰の宮之浦岳(標高 1,936m)をはじめ、1,000m を超える山々が連なる山岳島であり、その形状から洋上アルプスとも呼ばれています。また、黒潮の影響により温暖多雨で、海岸地帯で 4,000mm、中央山岳部では 10,000mm もの年間降水量があります。

屋久島の総面積は 50,429ha、そのうち 38,250ha が国有林です。国有林面積の 4 割にあたる 15,185ha が森林生態系保護地域に指定され、世界自然遺産地域の約 95%と重複しています。

屋久島といえば、樹齢 1,000 年を超えるヤクスギに目がいきがちですが、海岸部の亜熱帯気候から奥地山岳部の亜寒帯気候までが分布する垂直分布が特徴で、それぞれの気候に応じた植物が見られ、多くの希少種、北限種、南限種が生育している非常に重要な地域となっています。

屋久島森林生態系保全センターでは、世界自然遺産地域をはじめとする森林生態系保護地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図るため、各種モニタリング調査や保全対策、山岳部等の森林パトロール、森林環境教育、自然休養林等の適正な利用などについて、関係する各機関と連携して取り組みを進めています。



屋久島の面積 50,429ha
 屋久島森林面積 48,377ha (島の約 90%)
 国有林の面積 38,250ha (島の約 76%)
 森林生態系保護地域 15,185ha (国有林の約 40%)
 (内訳) 保存地区 9,601ha
 保全利用地区 5,585ha

国立公園(陸域) 20,989ha (島の約 42%, 国有林の 53%)
 原生自然環境保全地域 1,219ha
 世界自然遺産登録地 10,747ha (島の約 21%, 国有林の 27%)

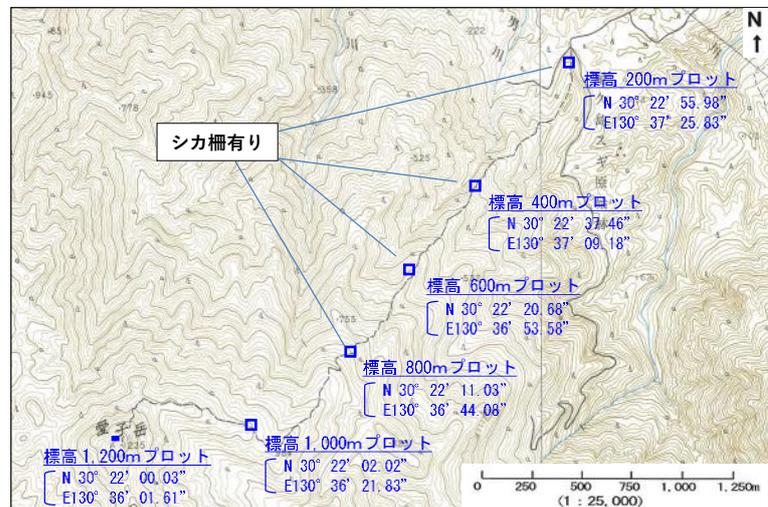
II 森林生態系保全・保護

1. 森林生態系モニタリング

(1) 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

屋久島東部等地域の垂直方向の植生モニタリング調査は、植生の比較評価及び環境変化の分析を行うことを目的として、5年ごとに実施している。過年度には平成13年度、平成18年度、平成23年度、平成28年度に実施してきた。

植生垂直分布調査は、標高200m地点から愛子岳山頂付近の標高1200m地点まで、おおそ標高200m毎に設定している既設プロット（6箇所）で行った（図II-1(1)-1）。



図II-1(1)-1 標高別定点調査プロット
(標高200・400・600・800・1,000・1,200m)

●表II-1(1)-1 調査結果 各標高の確認種数の変化と植生状況

標高	平成28年度と令和3年度調査の確認種数の変化と植生状況
200m	【73種→91種（柵内4種を含む）を確認】 歩道を挟むように尾根・谷を跨ぐ、スダジイを優占種とする広葉樹二次林であったが、本種はカシノナガクイムシによる被害で衰弱した後に、シイサルノコシカケの腐朽を受けた大径木が目立つ。
400m	【58種→73種を確認】 北向き平行急斜面にある広葉樹二次林である。高木層はイスノキが優占し、スダジイも比較的健全な個体が多い。
600m	【57種→83種を確認】 標高400mと同じく北西向き平行急斜面にある広葉樹二次林である。高木層はイスノキが優占し、スダジイも比較的健全な個体が多い。
800m	【60種→82種を確認】 北東向き緩斜面にある天然林である。高木層の5年前の優占種はタブノキであるが、現在は本数で圧倒するホソバタブが優占している。
1000m	【56種→82種を確認】 北向き緩斜面にある天然林である。落雷による枯死木が多い。
1200m	【42種→48種を確認】 山頂直下の北東向き天然林（矮小林）である。風衝地であるため、最上層は亜高木層で樹高はほぼ5m未満と、これまでとほぼ変わっていない。

(2) 高層湿原の植生状況モニタリング調査

令和3年度に実施した各種モニタリング調査および試行的保全対策

植生保護柵内外の植生調査(小花之江河)、湿原内の水収支・地質・温湿度調査(花之江河・小花之江河)、ドローンによる湿原撮影と水域環境、土砂堆積、植生群落の推移(花之江河・小花之江河)、希少種ハバメシジミ調査(花之江河・小花之江河)、試行的保全対策(花之江河)を行った。

(ア) 小花之江河における植生保護柵設置後の植生回復調査

ヤクシカによる食害・踏圧の影響を把握するため、H29年度に設置した植生保護柵内外にある調査プロット(1m×1m)10箇所、令和元年度に新たに設置した植生保護柵内にある調査プロット(1m×1m)1箇所において植生調査を実施し、柵内外の植生回復状況をH29年度と比較した。

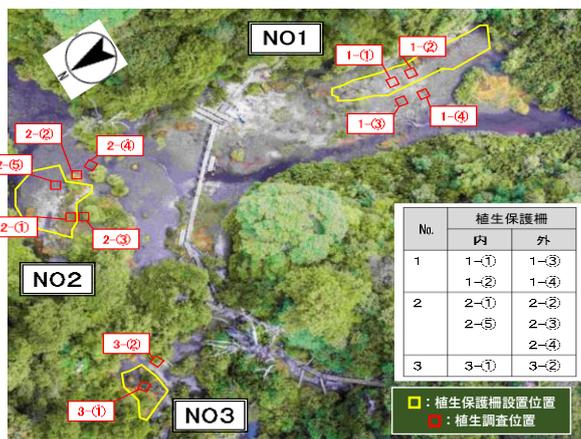


図 II-1(2)-1 小花之江河における植生保護柵設置位置と植生プロット位置

(イ) 湿原における流入流出量および気象モニタリング調査

湿原における水収支等を把握するため、令和元年度から地表水・地下水や気象等の観測によるモニタリング調査を実施した。それぞれのモニタリング調査については今後も継続し、令和4年度前半までのデータを基に水の流入と流出量及び降雨量や流域面積との関係から湿原の水文学的な特徴を把握する予定としている。

(ウ) 地形調査 (GPS 測量、土壌調査、木道下地形調査)

湿原の形成過程を推定し、保全対策の検討に資する情報収集のため、湿原の起伏状態の把握及び土壌の採取・分析の調査を行った。木道下についても木道設置による影響が推測されてきていることから、現状を把握し影響について分析を行った。

●GPS 測量

湿原中央部の扇状地から小楊枝川支流に向かって約 2000 m²を PPK (後処理キネマティック)方式で測量し、下層植生に覆われている湿原表層についても標高データを取得して、湿原全体のおおよその形状を把握した。



図 II-1(2)-2 GPS 測量の範囲 (赤枠内)

●土壌調査 (地下基盤面調査、土壌分析)

令和2年度と令和3年度で、合計27地点において地下基盤面の調査及びボーリングコアの柱

状図を作成している。縦断と横断で調査した結果から、基盤面の位置や、基盤面にどのように土砂堆積があったのかを調査、図示している。

●木道下地形調査

木道面及び木道上流側と下流側の形状はドローン撮影で取得している標高データより把握し、木道下の路床の状態は、折尺を使用して簡易な計測を行った。ただし、両湿原を比較すると、小花之江河の方が木道下を水が流れやすく、流路が固定されていない状況であることから、花之江河を優先して調査を行った。

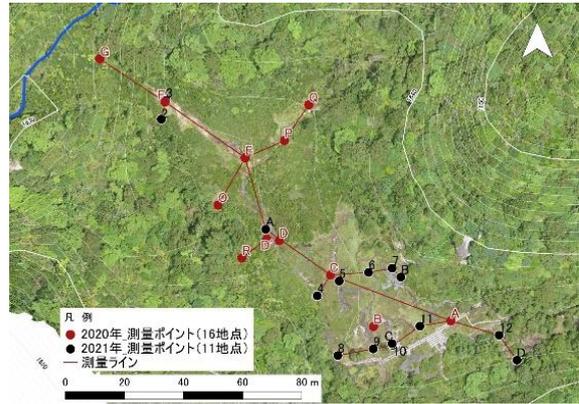


図 II-1(2)-3 令和2年度と令和3年度の花之江河における地下基盤面調査地点（27箇所）

(エ) 希少種ハベマメシジミ調査

ハベマメシジミは落ち葉溜まりを好んで生息する二枚貝であり、鹿児島県 RDB において、絶滅危惧Ⅰ類に分類されている。本種については、生息状況の変化を把握するため、過年度(H18,H22,H27)からコドラート調査(0.5 m²)と落ち葉溜りでの概況調査を実施してきた。

本年度は過年度の調査個所に加え、デトリタスが堆積している淀みにおいても生息確認を行ったところ、平成27年度から生息確認のなかった花之江河でも複数個所で多くの個体を確認することができた。

また、小花之江河においても、平成27年度から生息確認は1箇所のみであったが、複数個所で確認できた。



図 II-1(2)-4 花之江河で確認した個体（50個体以上、令和3年9月21日調査）

(オ) 試行的保全対策

河床低下や流路の拡幅が生じている花之江河において、緩やかに土砂等を堆積させて河床低下の進行を回避すること、及びその効果的な方法を検証するために、令和元年12月に丸太木柵工の設置による試行的対策を実施した。設置箇所は河床低下が進み、レキが表面に現れている流路(1流路)を対象とした。

設置後のモニタリングは、設置当日を含めて6回実施しており、土砂堆積部の計測、流路の状態を観察し、浸食が顕著な場所への対応策として適用できるかどうかを有識者と現地視察し、検討を行った。

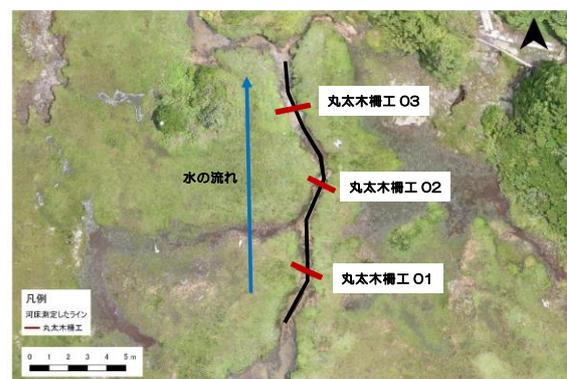


図 II-1(2)-5 試行的保全対策(丸太木柵工)の設置箇所

2. 森林生態系保全

(1) 植生保護

樹勢診断（川上杉）

「川上杉」耳嶽国有林81な林小班内（町道淀川線）

(ア) 目的

著名屋久杉のうち、外見上で樹勢が衰えた樹木等を中心に現地調査を行い、被害発生の原因究明と今後の保護対策や改善策を検討することを目的としている。

(イ) 概要

対象木は、葉量や樹皮・樹冠のバランス等から樹勢の衰えが懸念される樹木や歩道に隣接している樹木、前回調査からの経緯等により選定する。

調査事項は、対象木周辺の生育環境調査、林況調査、樹勢調査、土壌調査 等含めた危険度を判定し総合診断を行う。

具体的には、立地場所、周囲の状況、樹勢及び土壌調査、周辺樹木との関係、根元の状態（裸地・草地等、覆土の厚さ等）、樹木の状態（枯れ、腐れ、主幹の傾き等）、病虫害の発生状況等を調査した。

(ウ) 総合診断

周辺環境は、斜面下部の北側より南側にかけて車道が通っており根域が制限されている。生育場所は尾根より下がった緩い斜面の扇状地状の場所にあり風水害による障害は少ないと思われる。

地ぎわの開口部は大きくないものの内部の空洞はかなり大きく樹体支持に関わる強度不足は否めない。

大枝の一部が切断された跡があるものの切断による影響は少ない。

樹幹上部約13m付近より空洞があり心材腐朽が進んでいるが、現存する屋久杉の巨木に比べ枝葉の量が多く樹勢は概ね良好と思われる。樹幹上部の枯れ南側中央部の樹皮の傷み等があるものの葉色も良くそのほか樹皮は健全である。また、樹勢等も旺盛である。

樹木医の意見として見学者が株のもとに侵入し樹皮剥がれや土壌の流亡が予想されるので防護柵等の設置（道路側）を検討、また樹幹の傾きが増加する可能性があるため今後定期的に調査する必要があると診断された。



写真Ⅱ-2(1)-1 町道側（南側）から見た川上杉



写真Ⅱ-2(1)-2 幹辺材腐朽部調査



写真Ⅱ-2(1)-3 川上杉周辺の土壌の調査

(2) 森林パトロール

(ア) 地域連携推進等対策事業（グリーン・サポート・スタッフ）

林野庁は、自然性の高い天然生林において入り込み者の増加や登山利用の集中化・大衆化等に伴い、人による植生荒廃や森林機能の低下が見られることから、森林保護員(グリーンサポートスタッフ)による森林パトロールを実施することとし、平成18年度から天然生林管理水準確保対策事業を実施している。

これにより貴重な価値ある自然を将来に亘って維持していくこととして、その厳正な保護及びその周辺を含めた森林環境の適切な保全管理を推進している。

具体的には、世界遺産地域を含む屋久島の登山道等の森林パトロール及び軽微な補修、植生の衰退等の把握、登山者の安全・マナーに対する指導等を行なっている。



写真Ⅱ-2(2)-1 注意標識の設置



写真Ⅱ-2(2)-2 登山道の管理

(イ) 入林者増加期の職員によるパトロール

●シャクナゲ開花時期のパトロール

シャクナゲの開花が予想される時期に合わせて、高山植物等の盗掘防止の呼びかけや登山マナーの普及啓発活動を行っている。令和3年度も新型コロナの影響で来島者が減少している状況であったが、宮之浦岳登山ルートでは100名ほどの登山者が見られた。

パトロールは予定路線の4コースのうち太忠岳ルートは荒天のため実施出来なかったが、その他の3コースについてはシャクナゲの満開の時期と同時に実施することができた。

また、登山にあたっては「安全行動マニュアル」を全職員に周知徹底を行い安全第一にパトロールを行った。



写真Ⅱ-2(2)-3 永田岳周辺のシャクナゲ

【パトロール期間】 5月24日(月)～6月4日(金)

【パトロール日数等】

- ①宮之浦岳ルート……………2日間(延べ9人)
- ②黒味岳ルート……………1日間(延べ4人)
- ③永田岳ルート……………2日間(延べ9人)
- ④太忠岳ルート……………実行なし

●夏休み期間中のパトロール

宮之浦・黒味岳及び永田岳などの主要コースに加え、太忠岳、大株歩道経由の大王杉、太鼓岩、蛇之口滝までの7コースを設定し、登山者への注意喚起を計画していたが、8月上旬の長雨により4コースしかパトロールができなかった。

令和2年度と同様令和3年度も猛暑が続く中のパトロールとなり、非常に厳しい環境下で大変苦労したが、怪我なく無事に終了することができた。

5月のシャクナゲ開花パトロールと同様新型コロナウイルスの影響で例年より登山者は少なく感じられたが、大株歩道では70名以上、白谷雲水峡（太鼓岩コース）では多くの登山者を確認した。

シャクナゲ開花時期のパトロールを含め、ルールを無視した登山者など異常は見られなかった。令和4年度も充実したパトロールとなるよう職員相互で確認することとした。



写真Ⅱ-2(2)-4 登山者への声かけ

【パトロール期間】 8月3日(月)～8月27日(金)

【パトロール日数等】

- ①宮之浦岳コース……………実績なし
- ②黒味岳コース……………2日間(延べ 8人)
- ③永田岳コース……………実績なし
- ④太忠岳コース……………1日間(延べ 3人)
- ⑤大株歩道コース……………1日間(延べ 3人)
- ⑥太鼓岩コース……………2日間(延べ 6人)
- ⑦蛇之口滝コース……………実績なし

(3) ヤクシカ対策

(ア) 屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ

第1回目の会議は令和3年6月29日、第2回目は令和4年1月31日に開催され、ヤクシカの生息状況、捕獲等の被害防止対策、森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング、特定エリアの対策(西部地域)、今後のヤクシカ管理方針等について報告と議論が行われた。

(会議の資料や議事録は九州森林管理局 HP に掲載)

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/fukyu/shika/yakushikaWG_kaisaijoukyou.html



生息数は表Ⅱ-2(3)-1のとおりで、平成26年度以降減少傾向にあり、捕獲実績は表Ⅱ-2(3)-2のとおりとなっており島内全体で見ると減少傾向にある。

(イ) 局委託調査協力

九州森林管理局が委託契約する「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査(屋久島地域)」においては、ヤクシカの生息、移動状況や被害の状況等を把握した上で、植生の保護・再生方策、ヤクシカの個体数調整方策を含むヤクシカに関する総合的対策を検討・実施することとなっており、当保全センターでは、受託者と連携を図りつつ各種調査等の指導助言及び調査協力を行った。

(ウ) 有害鳥獣捕獲等

ヤクシカの適正な生息頭数目標に向けて国有林内で実施している職員による有害鳥獣捕獲を令和3年度も屋久島森林管理署、当保全センターで実行し、捕獲頭数は19頭であった。

また、捕獲効率を高めるため、小林式誘因捕獲によるくくり罠について研修を実施し試行しているところである。



写真 II-2(3)-1 「小林式誘因捕獲」の研修の様子

表 II-2(3)-1 調査地点数と推定個体数（平均及び95%信頼区間上限値）の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
糞粒調査地点数	37 地点	49 地点	20 地点	83 地点	35 地点	35 地点	35 地点	35 地点	35 地点	35 地点
推定個体数	18,677 ～	17,307 ～	28,392 ～	21,206 ～	16,968 ～	11,300 ～	13,390 ～	9,540 ～	12,240 ～	12,550 ～
	23,882	27,523	44,624	31,330	28,374	15,930	20,260	14,690	18,100	16,670

ヤクシカ WG 資料（鹿児島県）

表 II-2(3)-2 屋久島におけるヤクシカの捕獲数の推移

捕獲年度		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
有害	国有林外	3,142	4,129	4,886	4,642	2,861	2,409	2,500	2,352	2,132	2,054
	国有林内	413	415	399	510	403	427	192	173	159	213
狩 獵		714	364	1	3	3	22	107	11	28	13
合 計		4,269	4,908	5,286	5,155	3,267	2,858	2,799	2,536	2,319	2,280

(4) 屋久島低地照葉樹林の森林基礎調査

(ア) 目的

近年、屋久島の溪流沿いに位置する低地照葉樹林内において、菌従属栄養植物等の固有新種や希少種が生息していることが明らかになっている。

平成 29 年に環境省が希少種の分布状況についての調査を行っているが、希少種の生育地である森林自体についての詳細調査はいまだなされていない。

このような状況から本事業では、森林基礎調査を実施し、同地域の森林生態系の評価と適切な管理に必要な措置の検討及び今後の管理方針について提言を行い、保護すべき対象区域等の検討に必要な基礎資料を得ることを目的としている。

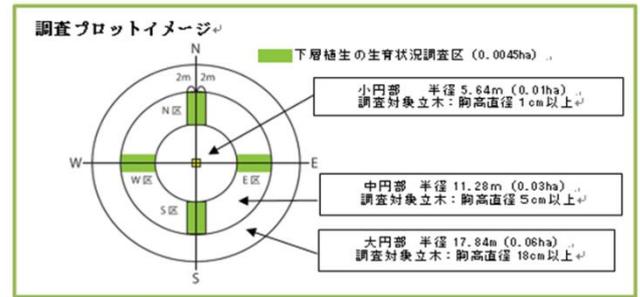


図 II-2(4)-1

調査項目	手法区分	詳細内容
樹木の生育状況調査	森林詳細調査	プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測及び全天球写真を利用して樹木の生育状況を定点観察する。
下層植生の生育状況調査	森林詳細調査	同一時期にプロット内に出現する全ての種を記録及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を定点観察する。
動物調査	動物調査 (哺乳類)	自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録する。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	森林概況調査	調査票やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察する。
	森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査する。

表 II-2(4)-1

(イ) 評価

花揚川・楯川・一湊川の 3 流域について、「林分構造や樹立林齢」、「胸高断面積合計 (BA)」、地域特異性の高い豊富な菌従属栄養植物等や希少種を含む「林床植物の多様性」の高さから判断して、3 流域すべてにおいて保護林設定管理要領の希少個体群保護林の設定基準を満たしていると考えられる。

(ウ) 対応

適切な保安全管理に向けた対応について、今後は保護林設定だけではなく、当該区域の機能類型を自然維持タイプに区分することにより保護担保を図るという選択肢も含め、関係機関、学識経験者及び地元関係者の意見も考慮しつつ、慎重に判断する必要がある。

なお、森林施業上の配慮については、森林施業予定箇所、希少種の分布情報等の情報交換や現地調査を含めて、定期的及び必要に応じて地元関係者間において実施されており、今後も継続して行われることとなっている。



希少種 ヤクシマラン
絶滅危惧 IB 類：環境省
絶滅危惧 I 類：鹿児島県



希少種 ダルマエビネ
絶滅危惧 II 類：環境省
絶滅危惧 I 類：鹿児島県



希少種 キバナノセッコク
絶滅危惧 IB 類：環境省
絶滅危惧 II 類：鹿児島県



希少種 イモネヤガラ
絶滅危惧 IB 類：環境省
絶滅危惧 I 類：鹿児島県

3. 気象モニタリング

(ア) 目的

屋久島では、年間 4,000～10,000 mmに達する降雨があること、花崗岩特有の表層の浅い地域が多いこと等から、山腹崩壊、土砂流出等の山地災害も多く発生している。

また、標高 0 m～1,900mに達する海岸線から奥岳に至るまでの標高差の中において、多種多様な動植物が生息している。

これらのことから、国有林の要所において雨量と温度の観測を実施し、永続的なデータを保存し森林生態系を研究することとし、雨量計及び温度計を設置している。

※この雨量及び温度観測は気象業務法第 6 条 1 項 1 の研究のために行う気象の観測となっている。

(イ) 観測体制

データの回収・機材の点検等は当保全センターが職員実行で 1 ヶ月に 1 回程度行っている

また、令和 4 年 3 月から、湯泊林道の雨量計・温度計設置箇所を高盤岳国有林 43 林班（標高 424 m）へ移設した。

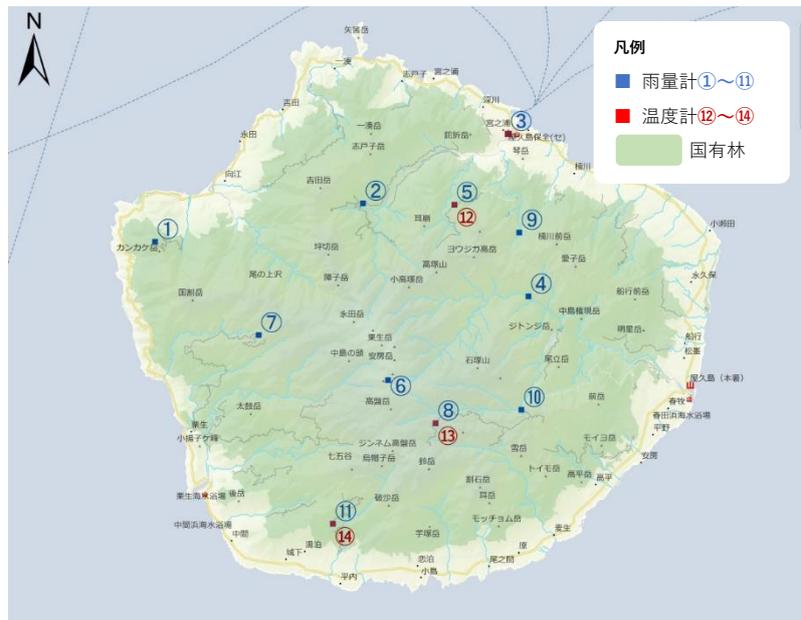


図 II-3-1 雨量計・温度計設置箇所位置図

(ウ) 観測地

図 II-3-1、表 II-3-1

表 II-3-1 雨量計・温度計 設置箇所一覧表

機器	番号	設置箇所	林小班	標高	備考
雨量計	①	永田カンカケ岳付近	275 た	730m	H12.07.12 設置
	②	宮之浦林道 233 支線	233 ふ	460m	H08.03.26 設置 H29.1 に 800m 下流に移動
	③	屋久島森林生態系保全センター	敷地内	5m	H07.08.31 設置
	④	小杉谷事業所跡	101 イ	680m	H08.02.07 設置
	⑤	白谷林道 220 支線	219 い	650m	H09.11.11 設置 H24.2 白谷から移設
	⑥	黒味岳頂上付近	22 ニ	1,800m	H08.05.31 設置 H29.07.26～Web 対応
	⑦	大川林道	9 る	1,020m	H08.02.01 設置
	⑧	淀川登山口	62 い	1,380m	H07.12.25 設置
	⑨	白谷雲水峡	215 い	630m	H12.05.10 設置 H29.07.01～データロガー
	⑩	ヤクスギランド	79 ハ	1,000m	H11.03.17 設置 H29.06.26～Web 対応
	⑪	湯泊林道	44 に	580m	H31.02.12 設置 (令和 4 年 3 月 4 3 ろ 2 林小班へ移設)
温度計	⑫	白谷林道 220 支線	219 い	650m	H23.02.18 設置
	⑬	淀川登山口	62 い	1,380m	H26.02.21 設置
	⑭	湯泊林道	44 に	580m	H22.11.16 設置 (令和 4 年 3 月 4 3 ろ 2 林小班へ移設)

(エ) 気象観測結果

●降水量データ

降水量は前年と比較すると、全体的には下回っている。

ヤクスギランドにおいては昨年より降雨量が大幅に増加しているが前年は欠測期間があったことが影響しているものと考えられる。また、6月、7月の雨量が少ないのは前年に比べ台風の影響が少なかったためと考えられる。

●気温データ

白谷林道220支線の観測については1月～8月は機器の不具合により未観測。

淀川登山口、湯泊林道については前年とほぼ同じ記録となった。

●欠測データについて

令和3年の気象観測データについては5地点で欠測があった。

欠測原因を分析すると機器の不具合が多かったが、機械取付のミス、電池切れなどもあった。

今後は欠測期間を出来るだけ短くするために、毎月データ収集するよう努める。

表Ⅱ-3-2 月別降水量（令和3年/単位:mm）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
最大値	346	1,387	1,081	1,216	1,238	1,406	1,139	1,080	784	535	582	185	10,142
平年値	247	615	464	470	775	806	801	653	527	314	400	146	6,217

表Ⅱ-3-3 月別・地点別降水量（令和3年/単位:mm）

観測地点\月	標高	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
①カンカケ岳	730m	126	107	228	287	569	340	408	505	286	55	161	61	3,130
②宮之浦林道	460m	346	414	313	230	808	635	1,139	668	477	323	456	185	5,993
③保全センター	5m	247	323	266	262	450	503	478	328	320	244	392	102	3,913
④小杉谷	680m	285	1,075	487	649	801	971	674	1,080	784	519	582	178	8,082
⑤白谷林道220支線	650m	299	688	290	272	682	681	876	690	714	404	422	165	6,180
⑥黒味岳	1800m	65	333	280	255	501 #	- #	- #	610	408	184	228	70	2,931 #
⑦大川林道	1020m	220	293	467	420	994	789	1,089	759	5 #	78 #	269	159	5,538 #
⑧淀川登山口	1380m	260	865	892	756	251 #	- #	- #	438 #	666	342	437	154	5,059 #
⑨白谷雲水峡	630m	324	1,080	385	461	667	979	794	792	771	535	512	174	7,470
⑩ヤクスギランド	1000m	297	1,387	1,081	1,216	1,238	1,406	985	958 #	470	434	540	132	10,142 #
⑪湯泊林道	580m	184 #	208	415	363	767	954	765	450	320	97	61 #	- #	4,581 #

-は欠測、#は期間中に欠測のあることを示す。

表Ⅱ-3-4 月別気温（令和3年/単位:°C）

白谷林道220支線（標高651m）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均									22.2	18.0	12.4	8.4	15.3
最高									25.0	20.7	14.4	10.6	17.7
最低									20.5	16.3	10.6	6.4	13.5
備考													

淀川登山口（標高1,381m）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均	1.5	4.2	7.3	8.5	13.8	16.1	18.3	18.2	17.6	12.4	6.8	3.0	10.6
最高	5.2	8.5	11.9	13.1	18.0	19.9	21.6	21.5	21.6	16.8	10.6	7.0	14.6
最低	-1.8	0.3	2.9	4.2	10.0	12.8	15.9	15.4	14.6	8.6	3.3	-0.7	7.1
備考													

湯泊林道（標高581m）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均	8.4	10.6	13.3	15.2	18.8	21.2	23.6	23.6	23.3	19.4	13.9	11.2 #	16.9
最高	12.0	14.3	16.9	19.1	22.2	24.4	26.8	26.5	27.0	23.8	17.7	15.3 #	20.5
最低	5.8	7.6	10.2	12.2	16.1	19.0	21.8	21.6	20.9	16.8	11.3	8.5 #	14.3
備考													

Ⅲ 普及教育・森林空間利用

1. 森林環境教育の実施

●屋久島高等学校

【実施日】令和3年6月8日 【場所】屋久島高校体育館

【参加者】1年生 73名

【目的】屋久島高校独自の伝統行事を継承し、郷土に伝わる「岳参り」の風習を体験しながら、屋久島の優れた自然環境や自然と人間との結びつきを考え、環境保護に対する意識の高揚に努める。

【内容】登山マナーや登山ルート上の注意点の周知及び自然環境への影響に配慮した携帯トイレの使用方法を説明した。



登山中のマナーを聞く生徒

●大分舞鶴高等学校（スーパーサイエンスハイスクール指定）スキルアップ研修

【実施日】令和3年10月1日 【場所】神之川林道近辺

【参加者】理数科1年生 20名

【目的】課題研究の事前活動として、貴重な生態系を誇る屋久島をフィールドとした自然体験を伴う調査研究活動を行うことで、将来の科学系人材としての態度や基礎的技能を育成する。

【内容】昨年度までは国有林内の試験地において、樹高・胸高直径の測定や下層植生の調査等の体験を行っていたが、今年度は行程の都合上、林内に入る時間が無かったため、代わりに屋久島の森林や外来種、試験地とその調査方法等に関する講話を実施した。



講話中の様子

●屋久島森の塾

【実施日】令和3年7月30日 【場所】屋久島森林生態系保全センター

【参加者】小学校中学校の教職員 12名

【目的】屋久島町内の小中学校で児童生徒に環境教育等を直接指導されている教職員を対象に、世界自然遺産地域に代表される貴重な自然を有する屋久島の森林・林業に対する知識を高めかつ理解を深めることにより森林環境教育の充実を図る。

【内容】屋久島の国有林と森林環境教育、屋久島の土埋木、ヤクシカの生態と被害状況について講話した後、「シカと森林のカード」の実習を行い、教職員の方たちに実際にゲームを体験していただいた。

また、屋久杉と地スギを材料としてストラップを作り、2つの木材の違いを体感してもらった。最後に、今後の環境教育に生かしていただくため「シカと森林のカード」を贈呈した。



屋久島の国有林についての講話

●安房中学校森林教室

【実施日】令和3年6月2日 【場所】安房中学校

【参加者】1年生 31名

【内容】前半は校庭にある植物を使って、葉のつき方や形などの違い、臭いなど植物の特徴の違いを説明した。また、校庭にある外来種の紹介、マツ材線虫病の解説等も行った。

後半は「シカと森林のカード」を使ったゲームを班ごとに実施し、ゲームの結果をもとに、シカの増加によって屋久島の森林や生態系にどのように変化が生じるのかを学んでもらった。



校庭での植物の説明

●安房中学校森林教室（2回目）

【実施日】令和3年11月11日 【場所】宮之浦公民館

【参加者】1年生 27名

【内容】雨天であったため公民館内で開催。午前中は小杉谷の歴史や林業遺産について講話したほか、環境省屋久島自然保護官事務所と屋久島環境文化研修センターにご協力いただき、世界遺産の説明やネイチャーゲームの実施など担当していただいた。

午後からは木材を使ったストラップ作りを行い、多くの個性的な作品が出来上がった。



ストラップ作りをする生徒たち

●八幡小学校森林教室

【実施日】令和4年1月26日 【場所】八幡小学校

【参加者】3年生 11名 4年生 7名

【内容】前半はシカ被害を防ぐためのシカネットと捕獲するためのくくり罠の説明を実施。その後、学校の裏庭にくくり罠を仕掛け、作動する様子を観察してもらった。

後半はヤクシカの問題についてどう解決するべきか考えるワークショップを行ったほか、センサーカメラに写った動物や狩猟の様子等の写真を紹介した。



くくり罠の説明

●榕城小学校森林教室

【実施日】令和4年2月12日 【場所】榕城小学校

【参加者】6年生 76名

【内容】「ヤクタネゴヨウ保全の会」と協同で実施。始めに植物の名前に関するクイズを行った後、種子島に生育する植物を使って、葉のつき方や形、種子の違いなどを解説した。

「ヤクタネゴヨウ保全の会」では、種子島と屋久島だけに生育するヤクタネゴヨウを守るために行っている保全活動について説明したほか、枯れた松を割って中にあるマツノマダラカミキリの幼虫の観察も行った。



種子島にある植物の葉の説明

2. 屋久島自然休養林

(1) 森林環境整備推進協力金の実施

森林及び利用施設の整備と環境美化のため、協力金制度を導入している。

- ・ 協定相手方 「屋久島レクリエーションの森保護管理協議会」
- ・ 協力金の額 高校生以上 1人 500円
- ・ 令和3年度協力金徴収額合計 25,169千円（対前年比 106.1% 1,439千円増）

(2) 利用者数

●全利用者数

荒川地区（ヤクスギランド）	24,295人	（対前年比 102.6%	622人増）
白谷地区（白谷雲水峡）	39,597人	（対前年比 108.6%	3,144人増）
計	63,892人	（対前年比 106.3%	3,766人増）

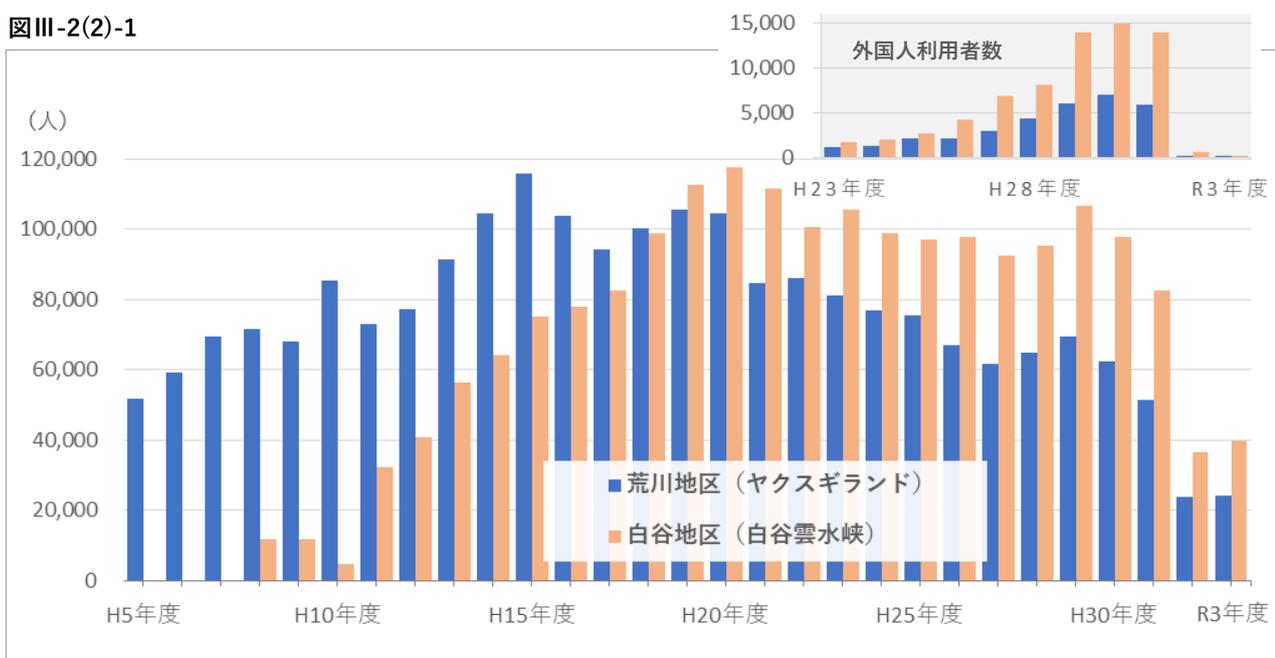
●外国人入林者数

荒川地区（ヤクスギランド）	10人	（当年度全体比 0.0%）
白谷地区（白谷雲水峡）	123人	（当年度全体比 0.3%）
計	133人	（当年度全体比 0.2%）

●年度別利用者数の推移グラフ

※ 令和元年度より、新型コロナウイルスの感染拡大による影響から自然休養林の利用者数が大きく減少している。

図III-2(2)-1



IV その他

1. 入林・保護林内調査等の手続き状況

国有林へ入林される場合（調査研究、撮影及び取材等）は、入林届の内容（目的、場所、期間等）に基づき、国有林の管理経営上の支障の有無について確認している。

特に、調査研究当該地が森林生態系保護地域内の場合は、保護林調査申請書の提出。また、植物採取を行う場合は、環境省や文化庁等の許可（保安林の場合は県知事）等の写しを添付の上、植物採取申請書の提出をお願いしている。（保護林調査申請書は令和4年4月末より不要となった）

（1）入林届件数

令和3年度においても、ドローンの件数が前年よりも増加し、全体の半数を占める結果となった。

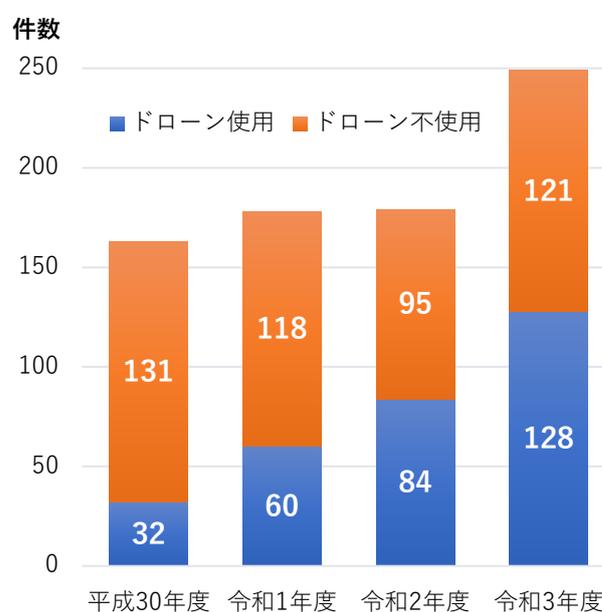
入林届（一般）件数

入林目的	件数	うちドローン届数
①調査・研究	74	7（9%）
②撮影	157	116（74%）
③測量関係	5	5（100%）
④その他	13	0（0%）
計	249	128（51%）

入林届（国または地方公共団体）件数

環境省	13
屋久島町	6
鹿児島県	5
警察・消防関係	0
九州森林管理局委託	2
計	26

図IV-1-1 入林届（一般）件数の推移



（2）調査研究の入林目的（保護林以外も含む）

代表者所属	入林目的
京都大学大学院理学研究科	ニホンザルの野外観察とそれに関する観察以外のデータ収集/二つのニホンザルの純野生群を対象にコドモにみられる遊びの量、遊び頻度に母親のコドモに対する行動が影響を与えるかを調べる/以前の調査でニホンザルが休息した場所の岩場の面積の測定、及びドローンによる植生調査
京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科	動物生態調査のための自動撮影カメラ設置とサル糞収集
静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	ニホンザルの昆虫食が枯死木分解速度にあたる影響に関する調査/「地球冷却微生物を探せ」という市民科学プロジェクトのための土壌採取
龍谷大学国際学部	野生ニホンザルの観察調査
京都大学野生動物研究センター	屋久島の中・大型哺乳類の生態調査/無人航空機を用いた植生の調査/ドローンによる航空写真による屋久島西部地域の植生判別の試み/屋久島東部林道沿いの大型哺乳類と鳥類のセンサス

代表者所属	入林目的
北海道大学 苫小牧研究林	シカ・サル・鳥類の個体群動態調査、シカのマーキング、シカ柵内外の森林植生比較
屋久島生物部	ヤクシカのライトカウント・モニタリング調査/糞塊調査（密度推定・把握の為）
九州オープンユニバーシティ	環境研究総合推進費「次世代 DNA バーコードによる絶滅危惧植物の種同定技術の開発と分類学的改訂」による技術開発のための植物 DNA 試料と証拠標本の採集
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	環境変動が照葉樹林の稚樹更新に与える影響を植物の形質に基づいて評価するために、半山に設定した固定試験地（4ha）に出現する樹種の形質の測定
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所	絶滅危惧種ヤクタネゴヨウのモニタリング調査、共生菌類の探索および越境大気汚染物質の影響調査
屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊	ヤクタネゴヨウ他国内希少野生動植物種及び絶滅危惧植物種の自生地分布調査とモニタリング/ヤクタネゴヨウの自生地観察会
東北大学大学院農学研究科	屋久島固有植物の由来を明らかにするため固有種を中心に 53 分類群の採集
京都大学	森林の構造と動態に関する研究
京都大学農学研究科	二次林における樹皮上の地衣類の多様性について調査/さまざまな林齢の二次林プロットで樹種多様性と地衣類多様性の関係性を評価/樹皮の特徴と地衣類の分布パターンとの関係性の研究
三重大学大学院生物資源学研究科	スギ天然林の土壌微壊生物の群集構造を解明することを目的とし、スギ根に関わる菌根菌と線虫を取り出し、その種類と豊富さの調査
名古屋大学生命農学研究科	ヤマモモの分布調査
公益財団法人服部植物研究所	学術研究。コケ植物は微小で種の識別が難しく専門性を備えた研究者でないと確認ができないので現状を再確認する必要がある、実態を把握するための専門家による現地調査
愛知学院大学	湿地の植生及び環境に関する調査（湿性植生の生育面積や生育種、簡易な水質等に関する調査）
国立大学法人筑波大学	さび菌および地衣類の採集
琉球大学 農学部	ヤクスギ林固定試験地の調査ならびにメンテナンス
東京薬科大学	カギカズラの資源調査
新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	サツキの分布環境調査と葉のサンプリング/屋久島におけるサツキの分布調査
神戸大学大学院理学研究科	コブランの採取
神戸大学理学部生物学科	植物の採取
屋久島野外調査研究会	蘚苔類の調査
東北大学生命科学研究科	陸産貝類の調査ならびに採集
京都大学大学院地球環境学学	小楊子川および大川上流域における両生類相の調査/生息の脅される小型サンショウウオ類の探索/得られた研究標本を系統分類学的に調査
九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室	ハネカクシ類やグンバイムシ類などの小型昆虫類を重点的に調査し屋久島の昆虫類の種多様性をより正確に評価
九州大学大学院	ヤクシマエンマコガネ他の糞虫類の分布に関する生態的な要因等の調査/ケシキスイ類他の甲虫類調査
大阪市立自然史博物館	屋久島高地に分布するヤクシマシオガマの送粉生態を明らかにするため花形態の計測、訪花昆虫調査、繁殖生態の調査
筑波大学生命環境系	ヤクスギ林における動植物調査
東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻林政学研究室	屋久島国有林内に現存する文化・歴史的遺構確認調査のため森林軌道跡の把握、軌道沿いの集落に関する足調査、林業遺構に関する収集調査を総合的に実施
天理大学	トロッコ道の記録(1950年代の地名を記録しており、これをもとにマッピングを行う)
屋久島地学同好会	宮之浦林道沿いに現れている地層の調査（7300年前の鬼界カルデラ巨大噴火による幸屋火砕流堆積物、及び関連する地層の調査）/地質調査
東京大学 大学院理学系研究科	土壌中のレアアースの含有量を調査
東京都立大学 理学研究科 生命科学専攻	屋久島に生息する林床・土壌棲の節足動物相の種レベル及び遺伝子レベルでの多様性を解明
中部大学	オオシロアリの観察と採取

代表者所属	入林目的
山形大学理学部	シロアリとシロアリの巣に住むシロアリではない節足動物（好白蟻性節足動物）、及びシロアリの入った倒木の採集
茨城大学理学部	シロアリ及び消化管内共生微生物の生態学的・遺伝学的調査
東京工業大学	シロアリ及びシロアリの入った枯死木の採集
久保田義則	昆虫の調査及び採集
尾上和久	動植物の観察
日本離島の螢探検隊	日本産（屋久島）のホタル科昆虫調査/屋久島における分布生態の解明、（ゲンジボタル、ヘイケボタル、オバボタル、オオオバボタル、クロミナミボタルその他）
佐伯智哉	昆虫類の調査
日本甲虫学会	腐食物分解を担う昆虫綱の採集調査
坂野 勇人	学術、分布調査
東京農業大学昆虫学研究室	卒業論文のサンプルの昆虫採集
学校法人 東京環境工科学園 東京環境工科専門学校	2年生の野外実習の一環として実施する動植物観察
屋久島環境文化研修センター	当財団主催の事業及び受入事業での使用と屋久島の動植物調査/S S H等の研究目的
鹿児島県立屋久島高等学校 環境コース	環境コース野外活動実習（専門家の指導の下、森林生態系の観察および植物同定実習）
鹿児島県立甲南高等学校	学校の課外授業の一環での調査研究

●国または地方公共団体

申請者所属	入林目的
特定非営利活動法人バードリサーチ	環境省モニタリングサイト 1000 事業の鳥類調査
九州地方環境事務所 屋久島自然保護 官事務所	国立公園管理、ヤクシカ対策
一般社団法人 日本森林技術協会	野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業及び屋久島世界自然遺産 地域等における森林生態系に関するモニタリング調査
アジア航測九州コンサルタント部 社会インフラ技術一課	希少植物の生育状況調査。過年度設置したサイトでのモニタリング。植生保護 策内に設置されたコドラート内の調査
一般財団法人鹿児島県環境技術協会	道路整備事業に伴う動物モニタリング調査
株式会社九州自然環境研究所 鹿児島 出張所	シカ密度調査
株式会社一成 環境事業部	令和3年度屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策業務
株式会社ブラック研究所	新高塚小屋付帯の土壌処理型トイレの点検調査
環境省大気環境課	越境大気汚染・酸性雨長期モニタリング計画に基づくモニタリング調査
鹿児島県環境林務部自然保護課	発注業務の現地指導及び第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画策定等に係る現 地確認
一般財団法人九州環境管理協会	九州南部ニホンジカ生息密度調査業務

2. 保護林調査報告書

●令和3年度報告書

代表者所属	入林目的
日本離島の螢探検隊	日本産（屋久島）のホタル科昆虫調査、・屋久島における分布生態の解明
静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	ニホンザルの昆虫食が枯死木分解速度に与あたえる影響の解明
東北大学生命科学研究科	屋久島における陸産貝類相の多様性とその規定要因の解明、ならびにハベマメシジミの新産地発見と保全遺伝学的知見の収集
久保田 義則	屋久島におけるアサギマダラのマーキング調査（28）（29）
2021 ヤクザル調査隊	2021 夏期ヤクシマザル調査
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所	絶滅危惧種ヤクタネゴヨウのモニタリング調査、共生菌類の探索および越境大気汚染物質の影響調査（屋久島・種子島）
屋久島環境文化研修センター	屋久島における動植物の多様性を周知し情報発信（節足動物中心）
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	ヤクシマザル（アカンボウ、子ども）の生態・行動調査
信州淡水研究所	屋久島の富着端淡水藻類相について調査
北海道大学苫小牧研究林	屋久島西部域におけるシカ・サル・鳥類の生態学的調査・人口学的調査および森林動態調査
東京環境工科専門学校	2年生の野外実習の一環として実施する動植物観察
大野友豪、林和輝、菱木健太	腐食物分解を担う昆虫綱の採集調査（ガムシ等）
京都大学大学院 地球環境堂	小楊子川および大川上流域における両生類相の調査。とくに生息の脅される小型サンショウウオ類の探索
九州大学農学研究院昆虫学教室	屋久島のグンバイムシについて調査
東京農業大学昆虫学研究室	屋久島における昆虫調査
東北大学大学院農学研究科	屋久島固有植物の由来を明らかにするために、固有種を中心に 53 分類群の採集
新潟大学佐渡自然共生科学センター 演習林	屋久島におけるサツキの分布域を明らかにするとともに流域によって遺伝的な多様性が異なるかどうかを比較
公益財団法人服部植物研究所	学術調査（コケ3種の調査：ヤクシマオヤコゴケ、ヤクシマスギバゴケ、オビケビラゴケ）

3. 広報活動

(1) 保全センター広報誌「洋上アルプス」の発行

●作成の趣旨

当保全センターの業務紹介や活動報告、屋久島の雨量観測データなどの情報を提供することにより地元施設や関係機関との密接な連携を図っている。また、屋久島の生態、森林の役割、自然と人との共生のあり方などに関する普及啓発を行うとともに、屋久島世界自然遺産地域内での保全活動を紹介し、広く一般の理解と協力を深めるために作成している。

●構成 A4版4ページ (A3二つ折り小冊子)

●発行日 毎月5日発行

●発行部数 約8000部/年

●掲載記事



<p>No.313 (4月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇第5回小杉谷閉山50周年現地検討会 ◇令和3年度「屋久島森・水開き」安全祈願祭の開催 ◇縄文杉登山をされる皆様へ ◇西表森林生態系保全センターとの意見交換について ◇令和3年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画 ◇人の動き ◇屋久島登山の魅力について (第1回) 一屋久島の雪山ー 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部等地域の垂直方向植生モニタリング (令和元年度) 【自然休養林情報】ヤクスギランド⑦天文の森コースその1
<p>No.314 (5月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇令和3年度を迎えるにあたって ◇当保全センター職員の紹介 ◇屋久島自然休養林 利用者数 令和2年度 ◇グリーン・サポート・スタッフ『GSS』の活動!! ◇屋久島登山の魅力について (第2回) 一屋久島の花についてー 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング (令和元年度) 【自然休養林情報】ヤクスギランド⑧天文の森コースその2
<p>No.315 (6月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇第6回小杉谷閉山50周年記念祭実行委員会 ◇令和3年度有害鳥獣捕獲従事者研修会を開催 ◇令和3年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要 ◇登山者へのマナー等呼びかける「シャクナゲパトロール」を計画 ◇屋久島登山の魅力について (第3回) 一屋久島の沢についてー 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング (令和元年度) 【自然休養林情報】ヤクスギランド・白谷雲水峡の危険木点検と処理について
<p>No.316 (7月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇令和3年度 シャクナゲ開花時期における登山指導 ◇屋久島高校へ縄文杉登山事前指導 ◇安房中学校森林教室を開催 ◇登山する時には注意しましょう ◇屋久島憲法100周年 (第1回) 一林野入会権をめぐる闘いー 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング (令和元年度) 【自然休養林情報】緊急時に備えた非常食の備蓄・施設間の通信システム

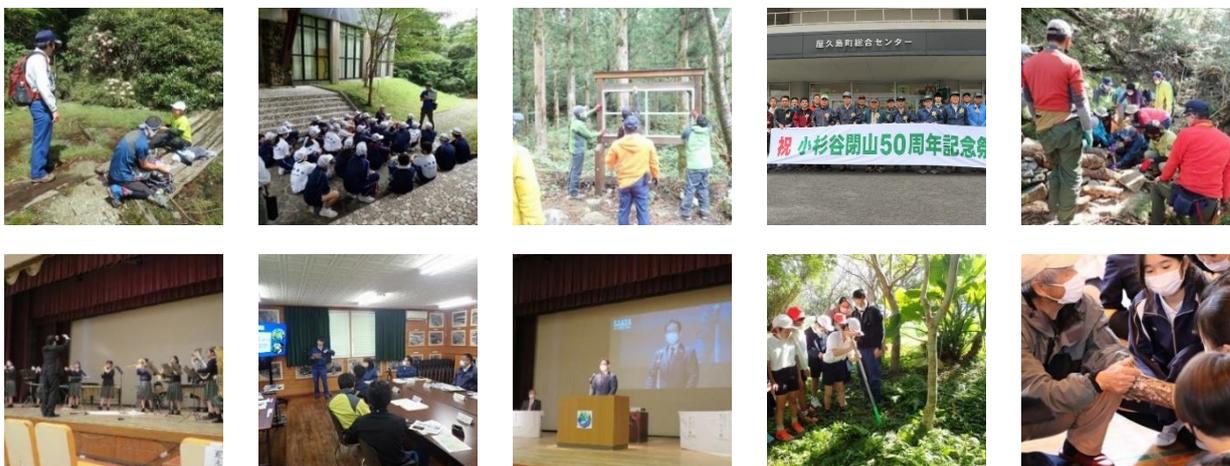
●掲載記事

No.317 (8月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催 ◇平木作りの体験 ◇職員による有害鳥獣捕獲を実施 ◇荒川軌道敷にある案内板の清掃 ◇屋久島憲法100周年（第2回） 一委託林利用の実態一 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島における外来種（前編）
No.318 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇令和3年度「屋久島森の塾」を開催 一森林環境教育と木工品の製作一 ◇屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の開催 ◇高層湿原及びヤクシカ被害の現地調査について ◇登山者へマナー向上の呼びかけ 一「夏休み期間中の森林パトロール」を実施一 ◇屋久島憲法100周年（第3回） 一衰退する林野入会権一 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島における外来種（後編）
No.319 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇屋久島憲法100周年記念シンポジウムの開催について ◇山岳部利用のあり方検討会 ◇縄文杉登山をされる皆様へ ◇非常勤職員の募集について ◇屋久島憲法100周年（第4回） 一共用林組合の盛衰一 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島の地衣類（第1回/全3回）森の中の海
No.320 (11月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇大分舞鶴高校の生徒に対してスキルアップ研修を実施 ◇令和3年度 著名屋久杉（川上杉）の樹勢診断を実施 ◇縄文杉周辺の登山者マナー指導を実施 ◇花之江河・小花之江河の湿原調査 ◇非常勤職員の紹介 ◇屋久島憲法100周年（第5回） 一分収造林にかけた夢と現実一 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島の地衣類（第2回/全3回）樹状地衣類と葉状地衣類
No.321 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇安房中学校森林教室を開催 ◇「小林式誘引捕獲」の講習会を実施 ◇「屋久島憲法100周年記念シンポジウム」の開催 ◇自然工法による登山道整備の実地講習会に参加 ◇屋久島憲法100周年（第6回） 一里めぐりの可能性一 【屋久島生態系モニタリング】屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島の地衣類（第3回/全3回）痂状地衣類
No.322 (1月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇公益重視の管理経営と次世代へつなぐ屋久島の森林 ◇新年を迎えて ◇令和3年度 高層湿原保全対策検討会を実施 ◇令和3年度 森林・林業の技術交流発表大会に参加 ◇屋久島木材フェスタに参加 ◇屋久島里めぐり（第1回） 一屋久島里めぐり推進協議会の発足一 【屋久島生態系モニタリング】高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討①（令和元年度） 【研究者コラム】屋久島の地衣類（アンコール回）調査の意義
No.323 (2月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇令和3年度 松枯れ対策連絡協議会を開催 ◇「forestday ～森と人がつながる1日～」へ参加 ◇令和4年度～令和5年度年度「国有林モニター」の募集について ◇屋久島里めぐり（第2回） 一吉田集落・中間集落一 【屋久島生態系モニタリング】高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討②（令和元年度） 【コラム】木に逢う日々（第1回）「ガイドを始めて」
No.324 (3月)	<ul style="list-style-type: none"> ◇令和3年度 第2回屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催 ◇職員による小杉谷案内板の取替を実施 ◇ヤクシカ問題と狩猟について八幡小学校で森林教室を開催 ◇ヤクタネゴヨウの保全について榕城小学校で森林教室を開催 ◇屋久島里めぐり（第3回） 一宮之浦集落・平内集落一 【屋久島生態系モニタリング】高層湿原植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討③（令和元年度） 【コラム】木に逢う日々（第2回）「ガイドという仕事」

(2) 「屋久島森林生態系保全センター」ホームページの更新

●令和3年度のトピックス

- 令和3年4月8日 着任あいさつ
- 令和3年4月13日 第6回小杉谷閉山50周年記念祭実行委員会
- 令和3年5月25日 永田岳シャクナゲパトロール
- 令和3年6月2日 安房中学校森林教室
- 令和3年6月8日 屋久島高校縄文杉登山事前指導
- 令和3年9月14日 「屋久島憲法100周年記念シンポジウム」のポスター決定
- 令和3年10月1日 大分舞鶴高校の生徒に対しスキルアップ研修を実施
- 令和3年10月26日 近自然工法による登山道整備の実地講習会に参加
- 令和3年11月6日 「屋久島憲法100周年記念シンポジウム」の開催
- 令和3年11月8日 「小林式誘引捕獲」の講習会へ参加
- 令和3年11月11日 安房中学校森林教室を開催(2回目)
- 令和3年11月19日 高層湿原保全対策検討会を実施
- 令和3年11月25日 森林・林業の技術交流発表大会に参加
- 令和3年11月27日 屋久島木材フェスタに参加
- 令和3年12月2日 屋久島外来種対策行政連絡会を開催
- 令和4年1月26日 八幡小学校森林教室を開催
- 令和4年2月12日 ヤクタネゴヨウの保全について榕城小学校で森林教室を開催
- 令和4年2月17日 職員による小杉谷案内板の取替を実施
- 令和4年3月21日 小杉谷閉山50周年記念植樹



これらのほかにホームページにはたくさんの情報が掲載されているのでぜひご覧ください

九州森林管理局 HP > 森林管理局の案内 > 森林管理署等の概要 > 屋久島森林生態系保全センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



令和4年9月

林野庁 九州森林管理局 屋久島森林生態系保全センター

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 1577-1

TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333